

楽しく、厳しく、あたたかく

「楽しく」

授業の時間が楽しい、休み時間が楽しい、友達や先生たちとの時間が楽しい。子どもたちのこういう気持ちを私たちは大切にしたいと考えています。人は楽しい気分有的时候に、自分の能力を最もよく伸ばすことができます。楽しい時間はあっという間に過ぎますし、終わったあとには心地よい疲労感や高揚感、充実感があります。学習観を形成している最中にある子どもたちにとって、日頃からこういった気持ちで勉強しているかは非常に重要なことだと思うのです。

また、世の中には「勉強、塾、受験は嫌なもの、我慢して行うものである」という考えを持っている、持たされている子どもたちがたくさんいるように思います。あるいはそのような考えを助長する教育機関、教育者も少なからず存在しているように思います。もちろん勉強は基本的に地道なことの繰り返しです。受験にも合格・不合格といった明と暗があります。しかしそういう中においても、私たちは子どもたちに、勉強そのものや自分の成長過程を心から楽しんでもらいたいです。塾を卒業し、大人になってから振り返ったときに、「いま考えるとあのときは大変だったけれど、すごく頑張っていたし、なんだか楽しかったな。」と思ってもらいたいのです。そして、子どもたちが「楽しい」と言いながら塾に通うからこそ、保護者の方々も安心して送り出せると考えています。

「厳しく」

私たちは子どもたちに自由に生きてもらいたいと考えています。人からあだこうだと言われるのではなく、自分で意思決定をして生きていってほしい。自由である（＝自分の意思決定によって物事を進められる）ためには、自らを律することが求められます。自分で考え、行動し、成果を出して、周りにも認められる必要があります。しかし、人間はなんとなくこれではいけないと分かっているながらも、楽なほうを選んでしまうものです。弱い自分を律して、行動し、成果を出して、ついには楽しみながら取り組めるようになる。そういう経験をたくさん積んでもらいたいと考えます。自分の弱いところを見つけ、きちんとそれを認め、真正面から改善に取り組み、それを維持する。自らを律する力は、勉強に限らず、さまざまな場面で活かされます。

そして、そのような子どもたちに求めるからには、私たちスタッフも自らに対して厳しく自分を律する姿勢を持ち続け、より良い塾をつくるために研鑽を重ねたいと考えます。

「あたたかく」

子どもたちには、温かい心を持った人になってほしいと考えています。人の痛みを想像できる、人に優しさを与えられる人になってほしい。子どもたちの学習の先には試験があり、受験があり、就職があり、競争があり、勝ち負けがあります。そういう状況だからこそ、勝つことがすべて、自分が勝つためには他人を蹴落としてもよいといった考えに陥らないように導いていくことも、受験産業に携わる私たちの使命です。勉強を通じてさまざまな価値観があることを学び、人との調和を実現できる人になっていってほしいのです。

また、子どもたちに成長してもらうために、ときに私たちは厳しい言葉を投げかけます。その子の弱いところを一緒に見て、真正面から改善を促します。その厳しさの根底には、彼らの存在を尊重し、彼らの成長を信じ、彼らに寄り添い、見守ろうとする温かさがなければならないと考えます。冷たい指導になっていないか、常に自問自答しながら指導にあたっています。